

# 別の顔



after

積み上げてきた基礎と、型の力強さ、スピードです。基礎を大事にしながら「南空」や「泊抜塞」など自分の得意な型の練度を高め、**「自分らしい型」**ができるように練習を重ねています。

昨年8月、常心門全国選手権大会の個人型で優勝、組手で3位、団体型で2位を獲得することができ

串良中学校  
いちきねね  
**市來 寧子**さん(2年生)



1年生から生徒会副会長として毎朝の挨拶運動や「3年生を送る会」などの準備に奔走。体育と理数系が得意科目で「数学の問題をたくさん解くと楽しい」と語る。



きました。これからの目標は、新しいメンバーで全国大会の団体型に挑み優勝することです。今度こそ優勝できるよう全員で練習して、自信を持って本番に臨みます。私も今まで以上に鍛錬を続けて、高校でも空手を続けていきたいと思えます。

**5**歳の頃から空手を習っており、常心門少林流池田道場で9年間、週3回の稽古を続けています。

空手には「型」と「組手」があり、私は型が得意。武器は長年稽古で



school

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ！



## タイムトラベル ～温故写新～

24話

### 笠野原の発展と三角公園



笠之原町は、昭和42年の高隈ダムの完成による畑地かんがい事業、平成4年の鹿屋バイパス全線開通、平成26年の高速道路開通など、本市の発展とともに成長してきました。かつて笠野原台地が深刻な水不足に悩まされていたという歴史はよく知られています。この問題の解決のために様々な人物が尽力してきました。



▲小野勇市氏の肖像。30歳から村会議員を務め、57歳で逝去しました

りましたが、大正2年に高隈村会議員に当選すると高隈川上流から笠野原台地までの調査を行い、台地の北端である現在の三角公園(下高隈町)付近まで導水が可能であることを発見しました。台地に水道を通す事業は大事業であり、高隈村だけでは解決できない問題でした。そこで大正14年から串良村の議員だった中原菊次郎、元鹿屋村長の森宗吉らと協力して水道事業に取り掛かり、昭和2年に水道工事が完了。その後7年の歳月をかけて、広大な笠野原台地の耕地整理事業に情熱を注ぎ続け、ついに5,239haもの面積を耕地化することに成功しました。この成功が、後の畑地かんがい事業につながっていくのです。現在、三角公園にはこれらの功績を讃えた記念碑が建っています。この記念碑は、今なお発展し続ける笠野原台地の北端でその未来を見守っています。